

「第2期滋賀県スポーツ推進計画」に基づく施策の実施状況について

(令和元年度実績)

第2期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例に基づき、平成30年度から令和4年度までの5年間の計画期間とする「第2期滋賀県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定した。

・目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、滋賀県民であることに誇りを感じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現 ～スポーツで滋賀を元気に！ 滋賀の未来を創る！～

・基本方針

- I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！
- II スポーツの力で「元気な地域」を創る！
- III スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

・政策

- 1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実
- 2 スポーツの持つ多様な価値の共有
- 3 スポーツ施設・環境の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- 5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大
- 6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

・計画期間

平成30年度～令和4年度 (5年間)

■達成率別指標数

・達成率について

【(実績-基準) / (目標-基準) × 100】により算定

達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。

・評価について

滋賀県基本構想実施計画(第1期)に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、平成30年度は20%以上、令和元年度は40%以上のものを「A」、平成30年度は20%未満、令和元年度は40%未満のものを「B」としている。

評価	平成30年度	令和元年度
A: 年次目標達成	7項目	6項目
B: 年次目標未達成	8項目	9項目
N: 未集計	1項目	1項目
合計	16項目	16項目

【基本方針Ⅰ】スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

■生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実（政策1）

【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H28)	H30	R 元	R4 目標	達成率	評価
成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率	男 35.6% 女 36.8%	男 39.7% 女 40.0%	男 45.6% 女 42.4% (目標 44%)	男女とも 65%以上	男 34.0% 女 19.9%	A B

出典：滋賀県スポーツ実施状況調査

指 標	策定時 (H28)	H30	R 元	R4 目標	達成率	評価
子ども(男・女)の1週間の運動・スポーツ実施時間 (土日を含み、平日の授業を除く)【小学5年生】	男 590.7分 女 347.2分	男 586.6分 女 341.7分	男 558.8分 女 330.2分	男 625分 女 382分	男 0% 女 0%	B B

出典：児童生徒の体力・運動能力調査等報告書

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 「滋賀県民総スポーツの祭典」を年間を通じて実施し、多くの方々がスポーツを楽しむ機会を創出した。(参加者 34,438人)

また、働き盛りの世代等を対象に商業施設やスポーツ施設等で体組成の測定や運動プログラムを提供し、運動・スポーツに取り組むきっかけづくりを推進した。(参加者 2,573人)

【今後の方向性】

滋賀県民総スポーツの祭典をより一層多くの方々に参加していただける大会にしていくため、例えば、市町や競技団体等で構成される滋賀県民体育大会検討委員会等において大会のあり方等を検討していく。

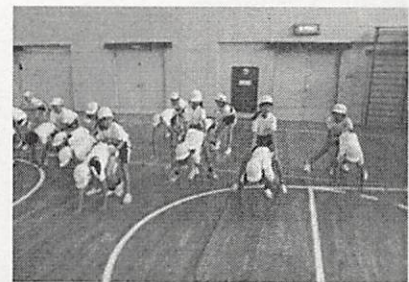
また、成人女性のスポーツ実施率が低いことから、女性のライフスタイル等を踏まえた取組や啓発を推進していく。

- 幼児の運動能力調査を実施し、子どもの運動遊びプログラムの普及を図るなど、幼児の運動改善に努めた。また、小学校では、「健やかタイム」や「チャレンジランキング」を実施し、児童の運動(遊び)の習慣化を図った。

(参加校 79校 参加者 18,729人)

【今後の方向性】

幼児や小学生の運動能力や運動習慣等をより正確に把握するとともに、「健やかタイム」や「チャレンジランキング」等の取組を通して、子どもの運動に対する興味・関心を高めていく。



(健やかタイム)

- 小学校では、「新体力テスト新・分析支援システム」の活用や外部講師による研修会等を実施し、授業改善を図った。また、中学校では、先進県の取組と本県の課題を考察し、「滋賀モデル」の作成に取り組んだ。

【今後の方向性】

今後、「子どもの体力向上」と「運動への愛好的態度」の育成に努め、幼・小・中学校の連携、高等学校との接続を見据えて、校種の枠を超えた研修の機会や授業研究を充実させていく。

■スポーツの持つ多様な価値の共有（政策2）

【主な指標の状況】

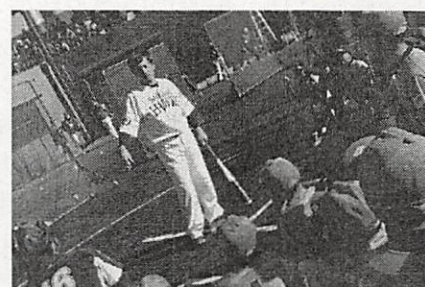
指 標	策定時 (H28)	H30	R 元	R4 目標	達成率	評価
しがスポーツ大使の就任数	26 者	34 者	38 者	50 者以上	50.0%	A
スポーツボランティア登録者数(本県ボランティア登録システム利用)	334 人	1,789 人	3,379 人 (目標 1,500 人)	2,000 人 以上	100%	A

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- しがスポーツ大使を招へいし、小学校やスポーツ施設、商業施設等でスポーツの魅力を講演していただいたり、指導していただいたりする取組を支援し、県民との交流を促進した。(実施件数 20 件、参加者 14,445 人)

【今後の方向性】

しがスポーツ大使から県民に向けたメッセージや動画等を積極的に情報発信するほか、今後、オンラインを活用した交流も検討する。



(しがスポーツ大使
松田宣浩選手による野球教室)

- 「ゲームコンダクターSHIGA」の取組として県内の企業や学校等を訪問した結果、新たな団体登録の獲得と登録者数の増加につながった。

(登録者 3,379 人 うち新規登録者 2,183 人)

また、ボランティアに関する基礎知識や救命対応等の研修を実施するとともに、トップアスリートと交流できる機会を設ける等、受講者の参加意欲向上につながる方策を展開した。(研修実施回数 7 回)

併せて、ボランティアとして活躍する場を調整した。(参加者のべ 719 人)

【今後の方向性】

ボランティアに様々な経験を積んでいただくことが大規模イベントでのスムーズな活動につながるため、魅力的な研修の実施や、多様な活動の場を提供する等、より多くの登録者に自主的な参加を促すための方策を展開する。



(ゲームコンダクターSHIGA
のボランティア)

【基本方針Ⅱ】スポーツの力で「元気な地域」を創る！

■スポーツ施設・環境の充実（政策3）

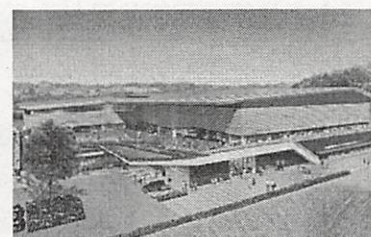
【主な指標の状況】

指標	策定時 (H26)	H30	R元	R4目標	達成率	評価
県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409 人	5,826,776 人	5,699,024 人	7,300,000 人以上	0%	B

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 県内の公共スポーツ施設の利用者数は、老朽化した施設の改修等に伴う施設の閉鎖や新型コロナウイルス感染症の影響等により減少している。

本県で開催する国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、主会場となる（仮称）彦根総合運動公園の再整備については建築・造成工事等を実施し、滋賀アリーナ整備については建設予定地の造成および建物の設計に着手し、琵琶湖漕艇場再整備については建物改築工事およびコース改修工事に着手した。また、（仮称）草津市立プールの整備については草津市に対して財政支援を行った。



（滋賀アリーナ完成予想図）

【今後の方向性】

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の競技会場としてだけでなく、県民のスポーツ・健康づくりの中核施設となるよう、周辺環境にも配慮しながら、着実に整備を進めていく。

■スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化（政策4）

【主な指標の状況】

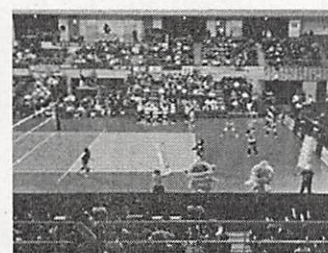
指標	策定時	H30	R元	R4目標	達成率	評価
スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	1,002万人 (H28)	1,091万人	1,105万人	1,200万人 以上	52.0%	A
滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人 (H29)	95,753人	73,262人	10万人 以上	31.7%	B

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数は、台風や新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった試合があったため、減少している。

ナショナルサイクルルートに指定された「ピワイチ」をポータルサイトやスポーツイベントの中で紹介した。

また、県内のプロスポーツチーム等の試合会場において、大規模スポーツ大会の周知と機運醸成を図るとともに、県民の運動・スポーツ実施率の向上に向けた啓発を実施した。



（東レアローズの試合での啓発）

【今後の方向性】

ナショナルサイクルルートに相応しい走行環境や受入環境の整備に努め、琵琶湖周辺だけでなく、内陸部でも「ピワイチ・プラス」を推進する。

また、県内のプロスポーツチーム等のSNS等も活用したスポーツの機運を醸成する。

【基本方針Ⅲ】 スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

■国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力の向上と競技者の拡大（政策5）

【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H29)	H30	R 元	R4 目標	達成率	評価
国体総合順位	39 位	31 位	30 位	8 位以内	29.0%	B
県障害者スポーツ大会の 参加者数	773 人	757 人	708 人	1,000 人 以上	0%	B

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 県内在住の小学5年生を「滋賀レイキッズ6期生」に認定（40人）し、5期生とともに育成プログラム（のべ32日）を実施した。

本県での国民スポーツ大会開催時に少年種別の中心となるターゲットエイジの中から強化指定選手として指定証を交付し、強化事業を実施した。

パラスポーツチャレンジプロジェクトでは、県内大学生を特別支援学校に派遣し、運動部活動を支援した。

【今後の方向性】

ターゲットエイジの強化に向け、レベルの高い指導を受けられる機会の充実や中学校との連携を強化するとともに、優秀な選手の県外流出の抑止に向けた取組を行う。

- 強化拠点校に派遣する優秀指導者を8人増員し、強化事業を実施（14校15部）した結果、レスリング、ウエイトリフティング、セーリング競技少年種別での国体上位入賞につなげることができた。

また、国体監督資格等の取得のために研修会等に参加する指導者に対する支援を実施し、監督資格取得者数が前年度と比較して7人増加した。

【今後の方向性】

強化拠点校における指導体制をさらに充実させ、少年種別の競技力向上につなげるため、優秀指導者派遣対象部の拡大を図る。



（滋賀レイキッズ6期生認定証交付式）

■地域の特性を活かした大会レガシーの創出（政策6）

【主な指標の状況】

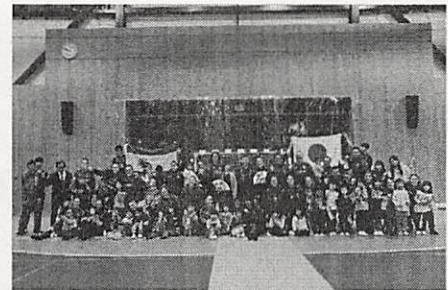
指 標	策定時 (H28)	H30	R 元	R4 目標	達成率	評価
オリンピック・パラリンピックの ホストタウンを通じて海外との交 流を始めた市町数	3 市	5 市	5 市	6 市町 以上	66.7%	A

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- ホストタウンに登録されている県内5市と連携し、ホストタウン相手国の紹介や競技体験などの交流事業を展開した。例えば、彦根市ではスペイン女子ハンドボールの事前合宿を受け入れるとともに、地元の子どもたちを対象にハンドボール教室を実施した。

【今後の方向性】

ホストタウン相手国の事前合宿の受入をレガシーとして、スポーツイベント等を誘致し、県立スポーツ施設等の有効活用を図るとともに、対象競技を地域のシンボルスポーツとして普及させていく。



(スペイン女子チームの
世界女子ハンドボール選手権事前合宿)

- 本県での国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、会場地市町の選定を進めるとともに、競技会場となる市町に対して支援を行った。

また、開催内定を記念したイベントや県内の様々なイベントでのPR・募金活動、さらにラッピングバスの運行や駅への大型階段広告の掲出等により、大会開催の周知と機運醸成を図った。



(国スポ・障スポ大会PR・募金活動)

【今後の方向性】

全ての競技会場の選定に向けて、市町、競技団体等との調整を続けるとともに、各競技会の開催に向けた準備が円滑に進むよう、市町、競技団体に対する支援を行う。併せて、両大会の愛称・スローガンやマスコットキャラクターを活用した発信の強化等を通じて、大会開催に向けた機運醸成を図る。